



福祉の現場でできる!



ケア記録システム「ケアコラボ」ではじめる

# 働き方改革実践ブック

「ケア記録のICT化」で  
働き方を変える**10**の方法

# はじめに

私たちケアコラボは、「ICTを通じて福祉の現場で働く人たちを応援する」ことを企業理念に、ケア記録システム「ケアコラボ」の開発と提供を行っています。

福祉の現場はICT化が遅れていると言われていますが、裏を返せばまだこれから進化する余地があるということです。

「現場」「経営」「顧客接点」の3点をICT化することで、皆様の働き方を改革できるのではないかと考えております。

## ICT

### 経営

現場のケアが見える化していつでも教育とフォローを

### 現場

ケア記録、バイタル、プロフィール情報、ケアプランなど

### 顧客接点

日々のご利用者の様子を正確な記録でご家族にシェア



本冊子は、ICT化を進める福祉事業者の皆様「できることから一歩ずつはじめてほしい」という想いで制作いたしました。ケアコラボを使って、働き方改革をどう進めていくかについて詳しく解説いたします。ご参考になれば幸いです。

# ICT化の現状

ICTとは、Information and Communication Technologyの略称です。

私たちは特にその中の「**Communication**」を重要視しており、単なるツールの提供にとどまらず、ご利用者・スタッフ・ご家族での**ケアのコラボレーション**を実現すべく開発を進めてきました。

介護報酬の請求事務のために、ほとんどの施設で請求システムが導入されています。

一方でケアや支援に関する記録は、紙で記録されることが多く、ICT化が進んでいないのが現状です。

では、そもそも紙での記録は何が問題なのでしょうか？

## 紙での記録の問題

### 情報の分散

- 保管する場所が分散
- 過去の記録を探す手間
- 同じことを何度も書く



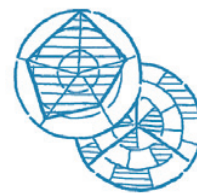
### 共有しづらい

- 口頭での報告機会が必要
- タイムリーに伝わらない
- 追記・コメントしづらい



### 表現力

- 写真や動画が使えない
- グラフを書くのが手間
- 字の上手・下手が影響



# 記録のICT化が進まない理由

市場にはすでに記録システムはあるのに、記録のICT化が進まない理由はどこにあるのでしょうか？

現場の方と議論していくなかで、私たちは3つのことが原因であると考えました。

原因

1

## 請求と連動したシステムは記録には向いていない

請求システムと記録が連動しているとサービスごとに記録が分散してしまいます。デイの担当者はショートの記録や訪問介護時の様子を知ることができません。より良いケアのためには、**ご利用者を軸として情報をまとめる**必要があります。

原因

2

## 利用環境がパソコンとタブレットに限られている

タブレットやパソコンは現場に持ち込むことが難しく、素早さが求められる福祉の現場には不向きです。**スマートフォンの活用こそが記録のICT化の鍵**になるはずです。

原因

3

## 改善されない、使いにくいシステム

請求システムは正確性が求められます。その代わりに現場にとっての使いやすさが重視されなくなっているのが現状。**日々変化する現場や業務に合わせて、現場視点でのシステムの改善**を続けることが求められます。

# ケアコラボとは



ケアコラボは、ケア記録をタイムライン化し、リアルタイムで他のスタッフやご利用者のご家族にシェアできるシステムです。

ご利用者・スタッフ・ご家族でケアのコラボレーションを実現し、より良いケアを目指します。

## 人が中心のシステム

記録は「人」を中心にタイムラインで統合。  
複数のサービスを受ける方も情報は一箇所に。

## ケアの見える化

科学的な根拠に基づいたアセスメントでチャート化。  
写真や動画の記録でご利用者の状況を詳細に。

## チーム間とご家族で ケア記録のシェア

記録をご家族に共有し、アドバイスやコメントも。  
スマホやパソコンで利用でき、どこからでも参照が可能。

## 月額 880円/人(税抜き)

職員1名あたりの価格



## 4分で分かる ケアコラボ紹介動画

QRコードアプリから読み取りください。  
iPhoneの場合カメラアプリも可。  
ホームページでもご覧いただけます。



# ケアコラボを導入し、 福祉の現場に働き方改革を！

# ケアラボ“課題”と“解決”目次

① どこでも見られる、どこでも書ける

② 写真や動画で記録をわかりやすく伝える

③ 過去の記録に一瞬でたどり着く

④ 申し送りをスマホ一つで完結させる

⑤ サービスを超えてご利用者に記録が集まる

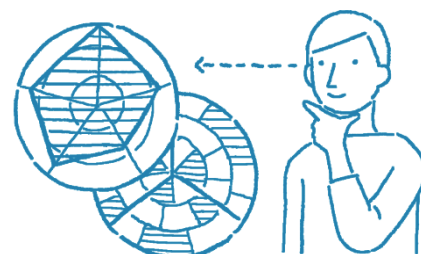
⑥ バイタルから生活リズムを知る

⑦ ご利用者の人生を振り返る

⑧ 記録をご家族に公開する

⑨ ケアプランを随時更新する

⑩ アセスメントで状況を把握する



# 1. どこでも見られる、どこでも書ける



課題

過去の記録を参照しようと思うと、書類がある棚まで足を運ばなければいけません。タブレットは持ち運べますが、ケアの合間の記録に使うには大きすぎます。

ケアコラボは**スマホ**から利用可能です。ポケットに入れておいて、**介助のスキマ時間で記録を参照・入力**することができます。もちろん、記録以外の機能も全てご利用いただけます。

解決



ケアコラボには**プロフィール情報も入力**できます。緊急時もスマホ一つあれば安心。番号をタップすればそのまま電話がかけられ、さらに住所をタップすればマップが開くので、送迎のナビとしても役立ちます。

Column

## 2. 写真や動画で記録をわかりやすく伝える

### 課題

紙の記録はテキストでしか表現できません。かといってデジカメで写真を撮ったものを一度パソコンに取り込んで貼り付けるのはとても煩雑です。動画に関しては撮影しても共有が難しく、全員で共有することが非常に困難です。



### 解決

ケアコラボはスマホ・タブレットに対応しています。日常の様子を撮影するには**持ち運びできる端末が必須**。撮影した写真・動画は簡単にタイムラインに投稿することができます。**ご利用者のご様子を写真で詳細に記録**することができ、動画の使用も簡単なので、リハビリのご様子などもひと目で分かります。





### 3. 過去の記録に一瞬でたどり着く



課題

膨大な書類から気になる記録を探しだすのはとても大変です。日ごとにならなくても辿りつくまでに時間がかかりますし、「褥瘡」など特定のキーワードを全て探すのは現実的に不可能です。  
また、どの紙に書いたかを思い出すのも一苦勞。



「事故報告」の検索結果画面。  
検索語句がハイライトされています。

タイムラインに情報が集約されるので、そこから検索をかければすぐに必要な情報にたどり着けます。

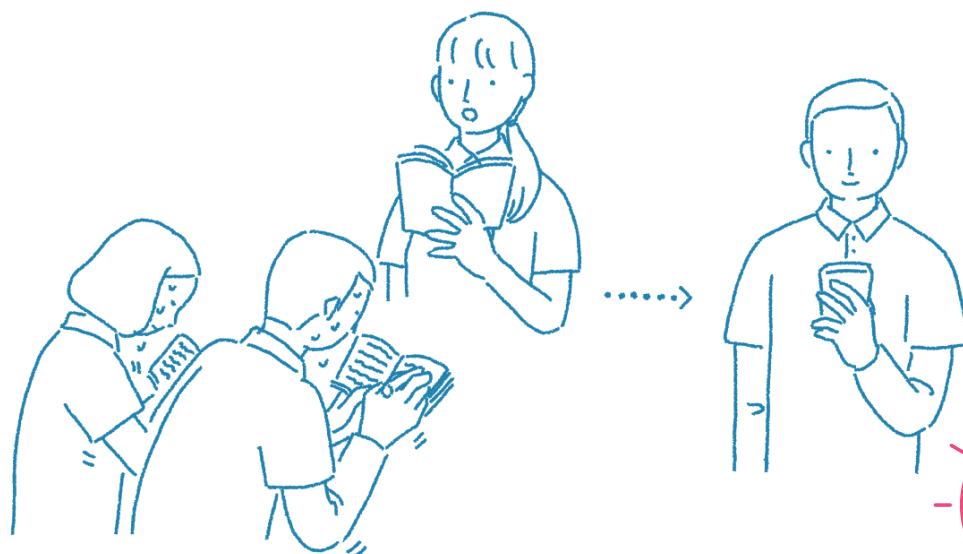
日付の指定はもちろん、特定のキーワードを検索することも可能。

会議時もスマホ一つ持ち込めば情報が全てそろいます。

「事故報告やヒヤリハットも、特定のキーワードを記録時に埋め込んでおくと、瞬時に検索でたどり着けます。また、コメント機能を活用することで、経過観察や処置の指示まで行うことができます。

Column

## 4. 申し送りをスマホ一つで完結させる



課題

解決

紙に書いたものを全体の申し送り会で伝えて、さらに自チームに戻ってまた同じ情報をチームメンバーに共有するのはかなり大変です。読めば済むような報告も、毎回他人が話すのを聞いてメモしては申し送りに時間がかかってしまいます。

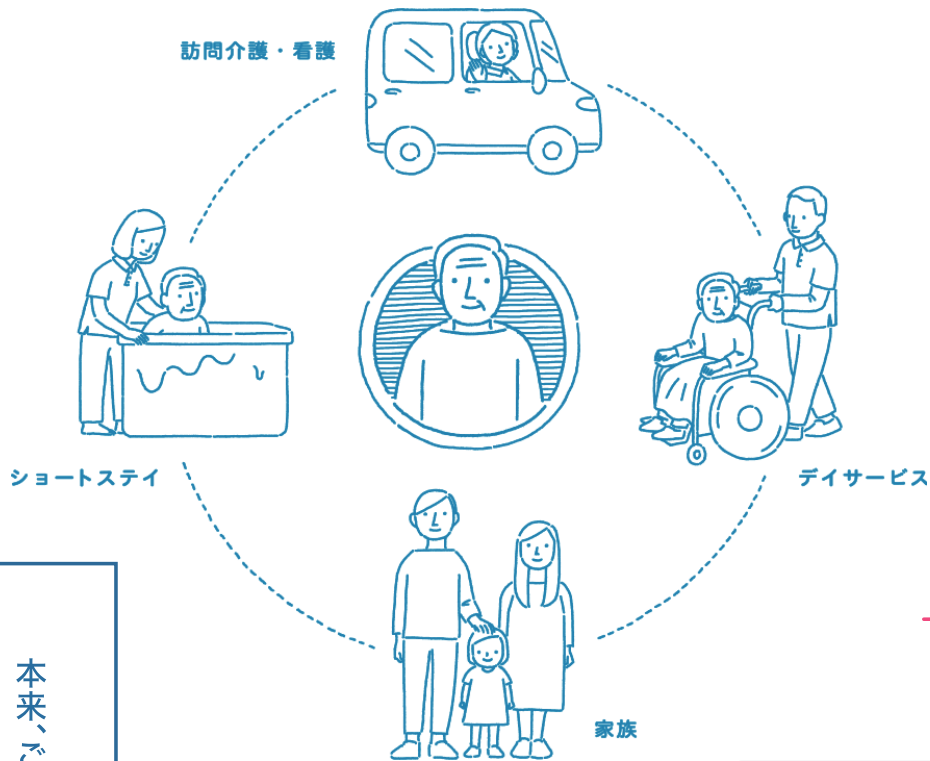
チームタイムライン機能は、**所属するご利用者の情報を一括で参照**できます。

さらに掲示板形式の申し送り機能を使うことで、前日の重要事項の報告が可能。未読・既読管理機能もあるので安心です。

**情報共有の時間を短縮**することで、残業時間の抑制も期待できます。毎朝の申し送りがスマホひとつで完結！



## 5. サービスを超えてご利用者に記録が集まる

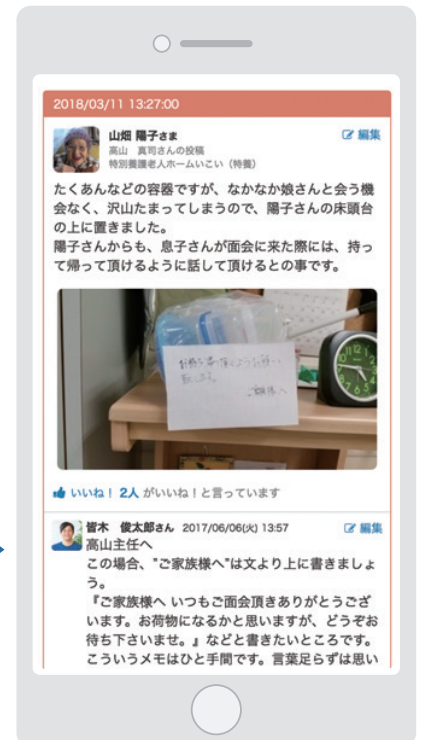


課題

本来、ご利用者に関する記録は一箇所にまとまっているべきです。紙ごとに分散していたり、利用したサービスごとに分類されていると、その人がどういった人なのか分からなくなってしまいます。

ケアコラボに記入した情報は、ご利用者を中心に、**タイムラインに情報が集約**されます。複数のサービスを受けられている方でも、タイムラインを見れば全ての情報が揃います。

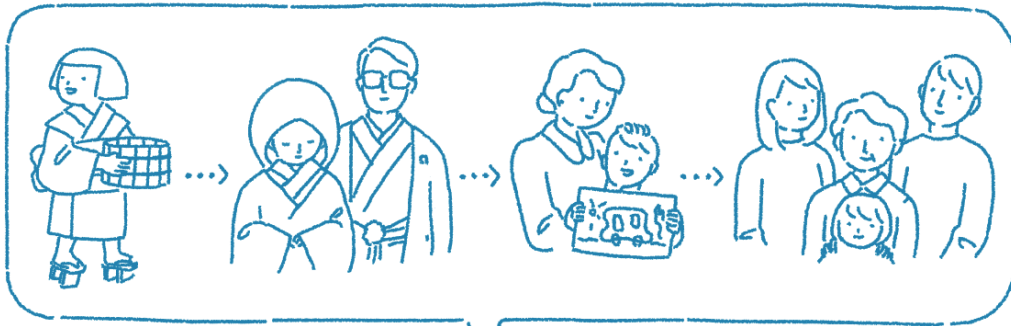
ご利用者のタイムライン。投稿には「いいね!」やコメントがつけられます。



タイムラインの投稿には「いいね!」機能とコメント機能があります。次の出勤時に「いいね!」がついているとなんだかうれしい気持ちに。自分のケアに対して経営者からアドバイスをもらえれば、ケアの品質向上にもつながります。



## 7. ご利用者の人生を振り返る



課題

ご利用者が今までどんな人生を歩んできたかは、お話しして頂かなければ分かりません。さらに会話をした人が他のスタッフに伝えない限りは共有もできません。  
ご利用者とのより良いコミュニケーションと個別ケアのために、生い立ちから知っておきたいと思えます。



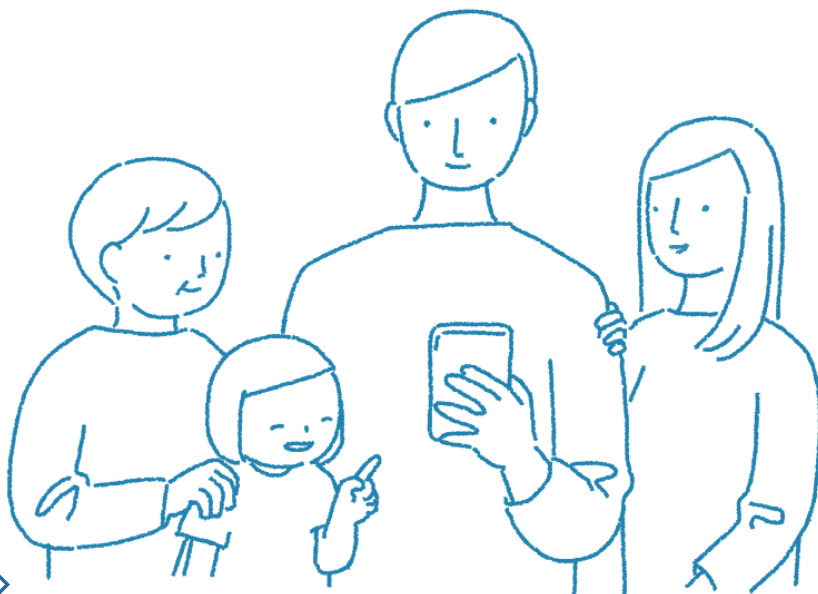
解決

年代ごとのできごとを人生録として記録することができます。文章だけでなく、過去の写真を登録することも可能。**ご家族にも編集していただくことができます。**

その方がどんな人生を歩んできたかを簡単に参照できますので、ご利用者にお声がけする際に、**良い会話のきっかけ**となります。

A screenshot of a mobile application interface for a user named '山畑陽子さま' (Yamashita Yoko). The interface has a blue header with navigation icons for 'タイムライン' (Timeline), 'タイトル' (Title), 'プロフィール' (Profile), 'アップラン' (Upload), '人生録' (Life Record), '生命チャート' (Life Chart), '生活チャート' (Living Chart), and '生活のリズム' (Life Rhythm). The main content area shows a profile card for '山畑 陽子さま' (Yamashita Yoko) with a photo and a '+ 記録を追加' (Add Record) button. Below the profile are three sections of life history: '子どもの頃 1945年 -' (Childhood 1945 -), '学生時代' (Student Era), and '20~30代 (1965 - 1984年)' (20s-30s (1965 - 1984)). Each section includes text and a photo. The '子どもの頃' section mentions birth in Kanbei, Kanagawa and a photo of a child on a bicycle. The '学生時代' section mentions learning flower arranging, piano, and calligraphy. The '20~30代' section mentions meeting a spouse at 21, marriage at 24, and moving to Shinagawa at 33.

## 8. 記録をご家族に公開する



課題

解決

ご家族には、面会時にしかご利用者の情報が伝わりません。ちょっとしたことで毎回電話するというのも何かと手間がかかります。特に遠方のご家族は面会に来ることも難しく、どうしても疎遠になりがち。ご家族に普段のどんなケアをしているのか伝えることもできませんし、ご家族もどういったケアを受けているのか不安になるようです。

指定した記録のみをご家族に公開することが可能です。普段のご様子をシェアすることで、ご家族も安心。記録にご家族がコメントをすることもできます。普段の何気ないケアにも、リアクションがあることでモチベーションアップに繋がります。



# 9. ケアプランをチームで更新する

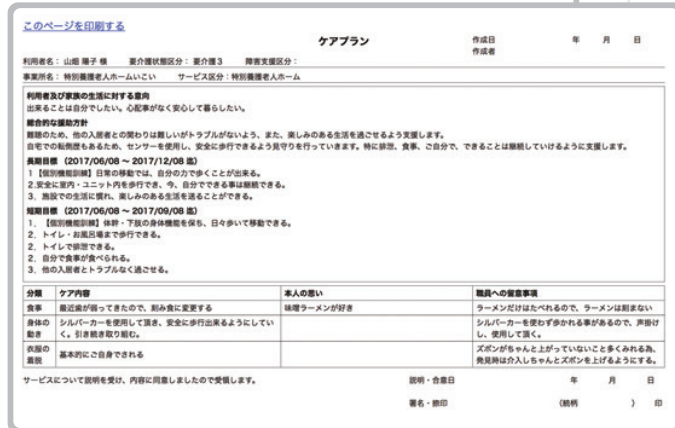


課題

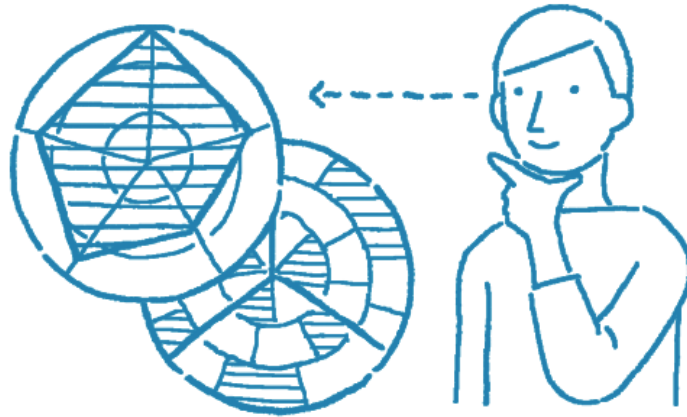
解決

エクセルで管理しているケアプランは、決められたパソコンからしか閲覧できません。印刷したケアプランも、見直しの度に探し出すのが大変で、訂正や変更があった際に気付くことができません。

ケアコラボ上でケアプランを作成・編集することができます。変更があった場合はタイムラインに通知されるので、見落としにくく安心。さらに作成したケアプランは自動でケアプランシートとして反映されますので、印刷してご家族にお渡しすることも可能です。



# 10. アセスメントで状況を把握する

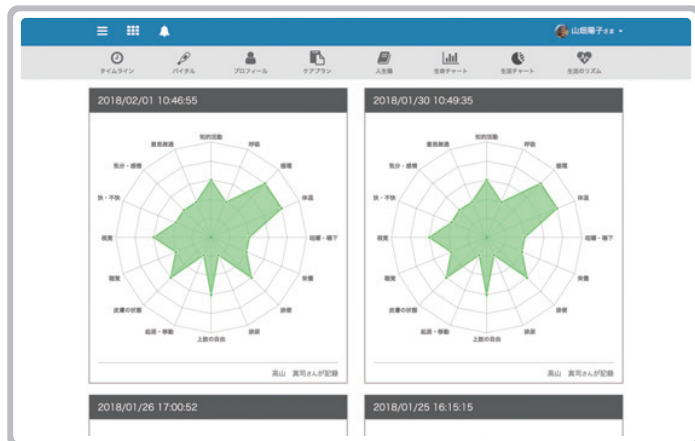


課題

ご利用者の身体状況を文字で伝えるのは一苦労。共通認識を持つのが難しく、チームへの共有も大変です。さらにアセスメントの情報を探す手間も発生してしまいます。

簡単な質問に答えていくことで、**ご利用者の状況をチャート化**してくれるアセスメント機能があります。

科学的な根拠に基いたアセスメントを利用することで、ご利用者の状況をひと目で把握することができます。



チャート化された画面。  
様々な項目で利用者の状況を確認。



# ICTを通じた働き方改革

働き方改革とは、業務改善を続けた先に結果としてたどり着く場所です。大きすぎる目標を掲げるよりも、日々の業務をICT化で改善し続けることが非常に重要です。

スマホの普及で、福祉の現場でもより気軽にICTが活用できる可能性が広がりました。今年が福祉の現場のICTの元年になると考えています。

スマホがあれば、YouTubeでご利用者の好きな曲を流しながら入浴介助をしたり、トランシーバーアプリでインカムとして活用したり、訪問の際にクックパッドを見ながら昼食を作るなど、現場での活用範囲は多岐に渡ります。

皆様の毎日の業務である「記録」を、まずはICT化してみませんか？

ケアラボ×スマホの活用で働き方改革の第一歩を、今こそ踏み出しましょう！



## ケアコラボ機能紹介



- 見やすい画面デザインで、スマホからの操作も簡単です。
- バイタルや食事量などの情報も、スムーズに記録できます。

- クラウド環境なので、いつでもどこでも利用できます。
- PC、タブレットだけでなく、スマホでも使えます。



初期  
費用

**無料**

月額  
費用

**880円**

(職員一人あたり)

## ケアコラボの特徴

- 申し込み後、**すぐに利用開始**できます
- **2ヶ月間は無料**。じっくり使い勝手を確認することができます
- 施設介護から在宅介護まで、**小規模も対応可能**です
- 全通信を256bit暗号化、**セキュリティも安心**

# ケアコラボで成功！働き方改革



スマホの利用でいつでもどこでも記録と参照。  
動画で記録できることが若手職員から好評！

社会福祉法人  
**福祉楽団様**  
[千葉県]

**福祉楽団**  
FUKUSHI GAKUDAN



社会福祉法人 **愛川舜寿会様** [神奈川県]



施設長が出先からアドバイスすることも可能。いいね！を押すことで現場のやる気も向上！



離れた事業所間での情報共有がリアルタイムに！  
日中と夜間のご利用者の様子をシェアすることでより良い支援に。

社会福祉法人 **南高愛隣会様** [長崎県]



社会福祉法人  
**信和会様**  
[千葉県]

ケアコラボで記録の家族共有・経費削減・時間削減の3つを同時に達成できました。



スマホを使ったケア記録で業務効率化！残業を削減し、安定した休憩が確保できるようになりました。

社会福祉法人  
**元気の里とかち様** [北海道]



社会福祉法人  
**松友会様**  
[神奈川県]

スマホのおかげで写真も撮れて、リアルタイムの情報共有が可能になりました！